

会 議 の 状 況

令和5年度第4回青森県原子力施設環境放射線等監視評価会議評価委員会

1. 日 時 令和6年1月30日(火) 13:30~14:30
2. 場 所 ウェディングプラザアラスカ 4階 ダイヤモンドの間
3. 出席委員 12名
4. 提出資料
資 料1 原子力施設環境放射線調査報告書(案)(令和5年度第2四半期報)
資 料2 原子力施設環境放射線調査報告書データ集(案)(令和5年度第2四半期報)
資 料3 東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(案)令和5年度(第2四半期報)
資 料4 会議の状況
参考資料1 原子燃料サイクル事業の現在の状況について
参考資料2 東通原子力発電所の現在の状況について
参考資料3 リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

5. 概 要

(1) 議事

1) 原子力施設環境放射線調査結果について(令和5年度第2四半期)

ア 原子燃料サイクル施設

県及び日本原燃(株)から資料1により説明があり、次のとおり評価された。

- ・原子燃料サイクル施設に係る令和5年度第2四半期の環境放射線等調査結果は、これまでと同じ水準であった。原子燃料サイクル施設からの影響は認められなかった。

イ 東通原子力発電所

県及び東北電力(株)から資料1により説明があり、次のとおり評価された。

- ・東通原子力発電所に係る令和5年度第2四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。東通原子力発電所からの影響は認められなかった。

ウ リサイクル燃料備蓄センター

県から資料1により説明があり、次のとおり評価された。

- ・リサイクル燃料備蓄センターに係る令和5年度第2四半期の環境放射線調査結果は、これまでと同じ水準であった。

委員から、原子燃料サイクル施設に係るモニタリングに関し、日本原燃(株)実施分の湖沼水及び表土に係るウランの測定値について、平常の変動幅の範囲内であるが、その範囲の中で高めに位置しているのか、それともこれまでと同程度なのか質問があり、同社から、湖沼水については採取地点が汽水湖(尾駈沼)であり海水の影響により測定値が変動するが、表土も含めこれまでの測定値と同程度である旨回答があった。

2) 東通原子力発電所温排水影響調査結果について(令和5年度第2四半期)

水産総合研究所から資料3により説明があり、今後も引き続き調査を継続し、データの収集に努めていくこととした。また、当該調査結果報告書に係る記載について、過去の調

査結果との比較ができるような新記載案を検討中であり、次回の評価委員会において新記載案を示す旨説明があった。

委員から、原子炉停止中の取水及び放水状況について質問があり、東北電力(株)から、非常用機器の冷却のため毎秒4トン程度の海水を取水し、冷却に供したうえで放出している旨回答があった。

また、委員から、県実施分の調査が例年よりも早い時期であったことについて、経年変動把握のため毎年同様の時期に実施することが望ましい旨の発言があった。

(2) その他

1) 原子燃料サイクル事業の現在の状況

日本原燃(株)から参考資料1により新規制基準への対応状況、各事業の運転状況等について説明があった他、トラブル等一覧について説明があった。

2) 東通原子力発電所の現在の状況

東北電力(株)から参考資料2により東通原子力発電所の運転状況等、新規制基準適合性審査の状況等について説明があった。

3) リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況

リサイクル燃料貯蔵(株)から参考資料3により許認可関係の状況等について説明があった。

委員から、参考資料1の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターにおける送排風機の一時停止について、本事象においてガラス固化体収納管の負圧が維持されたことは設計によるものであったのか質問があり、日本原燃(株)から、本事象においては負圧を維持できたが、長期間に渡れば徐々に負圧が失われる旨回答があった。

これに関連し、委員から、1つの建屋で送排風機が停止した場合に関連する建屋の送排風機が全台停止するという設計が資料から読み取れないため、今後の資料作成では改善願う旨発言があった。

また、委員から、リサイクル燃料備蓄センターが使用済燃料の貯蔵を開始した際には、参考資料3に搬入・貯蔵実績等について記載されるのか質問があり、リサイクル燃料貯蔵(株)から、他社を参考にしたうえで記載内容を検討する旨回答があった。